

令和 6 年度 稲美町行財政改革推進委員会議事録

1 日 時 令和 7 年 1 月 20 日（月） 19 時 00 分～21 時 00 分

2 場 所 稲美町役場 新館コミュニティセンターホール

3 出席者

（1）委 員 田端委員、大西委員、高田委員、中谷委員、田中委員、佐藤委員、
大村委員、中本委員、山崎委員、植田委員、増本委員、藤原委員

（2）事務局 井上経営政策部長、岡野企画課長、西村政策・デジタル推進係長、蓬萊主事

4 会議の概要

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員長・副委員長の選出について

4. 協議事項

（1）行財政改革の実施状況について

（2）今後の稲美町の行財政改革のあり方について

5. その他

6. 閉会

5 議事録

【1.開会】

【2.あいさつ】

〔経営政策部長〕

日本全国で叫ばれている人口減少は、我々行政にとっても大きな課題となっている。稲美町ではそういった課題を乗り越え、将来にわたって活力ある稲美町を推進していくため、まち・ひと・しごと創生総合戦略という計画を策定している。その計画に基づき、稲美町を取り巻く社会経済状況の変化や課題を的確にとらえながら、人口減少を抑制するために、子育て支援や、福祉の充実、土地利用の推進など、様々な施策を引き続き展開している。そのような観点から、ご意見、ご示唆を賜りたい。

また、町の財政状況は、基金が令和 5 年度決算では約 65 億円。兵庫県内

12町の内、4番目に多い額となっている。また、その他の財政指標についても、他の市町と比較して、良好な数値で推移している。

しかしながら、高齢化の進行に伴う医療費、介護などの社会保障費の増加、学校施設を初めとした高度成長時代のインフラの更新に多額の費用が必要になると考えられる。今後、まちの活力を維持していくためにも、計画的な財政運営が求められている。

一方で行財政改革は、財政状況が非常に厳しかった平成15年当時には、経費の削減を主な目的としていたが、現在は最小の経費で最大の効果を求め、住民サービスの向上や人口減少の歯止めにつなげていく目的が変わってきており、まち・ひと・しごと創生総合戦略と重なってくる部分も多く出てきている。そういった時代の変化も踏まえ、今後の行財政改革の進め方あり方につきましても、様々な角度からご意見をいただきたい。

【3. 委員長・副委員長の選出について】

委員長に田端委員、副委員長に高田委員を選出

〔委員長あいさつ〕

先ほど経営政策部長より、これからの稲美町の行財政改革あり方を考えて欲しいという意見をいただいた。地方財政に関しては小泉内閣のときに三位一体改革と言いつつも、地方税の財源移譲が引き延ばしにされ、交付税、補助金は減額されてきたという厳しい背景がある。しかしながら、稲美町ではこの地域を愛する住民の皆様方との協働が実を結び、少しゆとりをもって町行政を進めることができているという現状。そういった観点も含めて、ご意見を賜りたい。

【4. 協議事項】

(1) 行財政改革の実施状況について

〔事務局〕 稲美町の財政状況・行財政改革の実施状況の説明

〔委員〕 財政調整基金の積み立ての目標金額と使用目的は。また、物価高騰等によって目減りをしていないか。

〔事務局〕 目標額の具体的な設定はない。使用目的は、歳入と歳出のバランスを考慮し、必要となる事業費の調整に用いている。今後、公共施設等の更新など、多大な事業費が必要と見込んでおり、長期的には積立額は減少傾向になると考えている。

〔委員〕 取組み項目が検討となっている町税の減免規定について説明を。

〔事務局〕 個人住民税の死亡者に対する減免は、近隣市町の動向も踏まえ、現時点では廃止の予定はない。今後も近隣市町の動向を注視していく。

〔委員〕 子育て支援拠点施設（いなみっこ広場）の利用者数の増加は良い傾向。利用者の年齢の内訳は。

〔事務局〕 利用者の年齢の集計は行っていないが、主に就学前の子どもとその保護者にご利用いただいている。

〔委員〕 財政調整基金は、将来の公共施設の更新に使用することだが、毎年工事費が上がっているため、早く施設の更新を行ったほうが良いのでは。

〔事務局〕 財政調整基金は増加しているが、今後、学校やその他の公共施設をはじめ、文化の森の改修工事も控えており、多額の取り崩しが見込まれる。そのため、年度間での不均衡ができるだけ生じないように調整し、活用していく。

〔委員〕 ふれあいまつりや大池まつりは今後も中止したままなのか。また、現在実施している、事前に周知をしない突発的な花火（サプライズ花火）は効果があったのか。

〔事務局〕 ふれあいまつりについては、コロナ禍を境ににぎわい創出事業を新たに創設し、補助金を出しつつ、年中町内でさまざまなイベントが行われ、稲美町を盛り上げるという方向に転換している。

花火については、コロナ禍を境に加古大池での花火大会を休止した。来場者の加古大池の土手の往来の危険性もあり、再開は厳しくなっている。サプライズ花火は急に花火が上がるため危ないとの意見もあり、6年度は補助金の交付を中止した。7年度以降の花火大会の実施などについては現在検討中。

〔委員〕 イベント開催による集客は重要だと考えるが、町としての考えは。

〔事務局〕 今後もイベント開催などに関する意見をいただきながら、実施すべき事業を考えていきたい。

〔委員〕 道路補修の進捗状況が見える化できないか。道路によって補修の優先度があるのは分かるが、役場に相談した道路の補修対応の進捗状況が分かれば、より住民も納得できるのでは。

〔事務局〕 どこまで情報を公表するのも含めて、今後の検討課題としたい。

〔委員〕 農地パトロールとはどのようなものなのか。必要性はあるのか。草むらになってしまっている耕作放棄地に手を入れることはできないのか。また、ホームページなどの情報の更新の頻度を増やせないのか。もう少し早く役場の動きが分かるようにしてほしい。

〔事務局〕 農地パトロールとは、農地の違法転用がないかどうかを確認するパトロールである。耕作放棄地はどこまで町が関与できるか難しいところだが、将来の農地利用の姿を明確にするため、現在地域計画の策定を進めている。

〔委員〕 農地や空き家問題の解消に向けて、町から国・県への要望は出さないのか。

〔事務局〕 今後の国・県に対しての要望活動に挙げられるのかどうか検討したい。

〔委員〕 ふるさと納税による収入について、今後の見込みも含めどう考えるのか。

〔事務局〕 ふるさと納税は自治体間競争が激しくなっているが、地場産品を全国に発信する機会にもなると考えており、引き続き取り組んでいく。

〔委員〕 ふるさと納税で集まった金額と必要な歳出額の差額はどれくらいか。

〔事務局〕 令和5年度の実績では、寄付額は約2億7千2百万円。歳出額は約1億3千3百万円。他市町へふるさと納税をした人の税控除額が約7千3百万円。差し引き約6千6百万円の黒字となっている。

〔委員〕 町内企業に対する支援や工業団地の整備などは考えているか。

〔事務局〕 町内企業が活気づくようプレミアム付き商品券の販売を行っている。企業誘致については、稲美町は農振農用地の地域が多く難しいところがあるが、今後できるように模索している段階である。

(2) 今後の稲美町の行財政改革のあり方について

〔事務局〕 本来、行財政改革は、地方自治体の財政危機の解消や行財政の効率化を目的として全国で始まった取り組みだが、現在では、高齢化や人口減少への対策等、社会や住民のニーズに応じた行財政サービスを展開することが重要となっている。

現在、稲美町では社会経済状況の変化、住民意識の動向を踏まえ、新たなまちづくりの方針を示す計画として、第6次稲美町総合計画を策定している。その総合計画の基本理念として「ともに進める持続可能なまち」を掲げており、その中で効率的な行財政運営の推進に取り組んでいる。

また、総合計画で掲げた目標を達成するため、稲美町まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランを策定し、行財政改革と同様に、外部委員による、まち・ひと・しごと創生推進委員会を設置し、進捗管理を行っている。

こういった状況から、総合計画や総合戦略アクションプランを通じて行財政改革の進捗状況の確認も行っており、目的が重複する部分もあるため、行財政改革推進委員会は今年度をもって終了したいと考えている。委員の皆様のご意見を賜りたい。

〔委員〕 大きな括りとして総合戦略は良い取り組みではある。しかし実際の事務事業では税収、補助金の増減等、行財政改革の視点は重要である。そういったところについて、町民に諮る機会があっても良いのではないか。

〔事務局〕 行財政改革が重要という認識はこれまでと同様。あくまで行財政改革も含めた住民サービス向上の取組みの進捗状況について諮る機会を、まち・ひと・しごと創生推進委員会へ一本化したいと考えている。

〔委員長〕 行財政改革推進委員会としての役割は、まち・ひと・しごと創生推進委員会に引き継ぎ、今後はそちらの委員会で議論を行い、来年度以降の行財政改革推進委員会は開催しないこととしてよろしいか伺いたい。

〔各委員〕 異議なし。

【5. その他】

〔事務局〕 長時間のご協議ありがとうございました。本日いただいたご意見については、議事録として町のホームページで公開させていただく。

【6. 閉会】

〔副委員長〕 本日はお忙しい中、議論いただきありがとうございました。本日の会議での意見を、今後の行財政運営に反映し実現していただきますようお願いしたい。